

全木連時報

12月15日(日曜日)

(第659号)

平成25年(2013年)

発行所

一般社団法人 全国木材組合連合会

東京都千代田区永田町2-4-3 ☎03(3580)3215
URL <http://www.zenmoku.jp>



木材産業シンボルマーク



第48回全国木材産業振興大会開催

新たな木材利用への挑戦で木材産業の創造的再興 「街づくりへ木材利用を拡大しよう」

さいたま市に全国から八百人が参集

目次

第四十八回全国木材産業振興
大会特集

全木連と全木協連が主催する第四十八回全国木材産業振興大会は、「新たな木材利用への挑戦で木材産業の創造的再興」をテーマに掲げ、十一月二十一日、さいたま市の「浦和ロイヤルパインズホテル」で開催された。大会担当は全木連関東支部。開催地担当は一般社団法人埼玉県木材協会、埼玉県木材協同組合。

第一部の大会議事では、別掲の大会宣言を満場一致で決議した。第二部は全木連創立六十周年記念シンポジウムが行われた。第三部の表彰式では、退任団体長表彰、木材産業功労者表彰、協同組合事業功績者・優良組合表彰が行われた。この後、懇親会に移り、盛況のうちに閉幕した。

大会には、沼田正俊林野庁長官、林田康孝国土交通省木造住宅振興室長、上田清司埼玉県知事、木下達則さいたま副市長はじめ多数の来賓の出席があった。

第一部の大会議事は、国歌斉唱(官)、国土交通大臣(代理)林田康のあと、打越芳男茨城県木材協同組合連合会会長の開会のことばがあり、この一年間の物故者に対する黙とうに続いて、坂東正一郎埼玉県木材協会会長の歓迎挨拶があった。次に、吉条良明全木連会長による大会会長挨拶があった。

次に、来賓祝辞があり、農林水産大臣(代理)沼田正俊林野庁長官、梨木弘隆埼玉県木材青壮年連合会会長より現地基調報告があり、戸栗敏山梨県木材協会会長が宣言を朗読し、さらに特別決議を提案し、

満場一致で決議した。これを受けて、吉条全木連会長が決意表明を行った。

第三部の表彰式は、坂東正一郎全国木材協同組合連合会会長の挨拶があり、次に末松広行林野庁林政部長から祝辞があった。各表彰がとどこおりなく進み、終了のあと、受賞者を代表して落合公信神奈川県木材業協同組合連合会前会長から謝辞が述べられた。

次に、次期大会開催地を代表して吉条良明全木連東京支部代表、東京都木材団体連合会会長から挨拶があり、最後に和南城純一群馬県木材組合連合会会長から閉会の言葉が述べられた。

宣言決議

第四十八回全国木材産業振興大会

- 一 地域経済の維持振興に不可欠な新たな大型経済対策の早期実施、中小企業対策の充実を図ろう
- 一 ぐらし、商工業施設など街づくりに木材利用を創出する総合的な取組を進めよう。東京オリンピック・パラリンピック関連施設等への木材利用を推進しよう
- 一 木材利用ポイント事業や木造の公共建築促進対策などの木材需要拡大対策の拡充強化の実現に取り組もう

なお、大会の二部として、大会記念行事「全木連創立六十周年シンポジウム「木材を使う街づくり」」が開催された。

はじめに、和田充埼玉県木材協会副会長の挨拶があり、基調講演が行われた。

基調講演演題は「地域の復元力となる木造の住まいと街づくり」。講師は日本建築士会連合会会長三井所清典氏。講演に引き続き三井所氏がコーディネーターとなり、パネルディスカッションが行われた。

パネリストは、工学院大学教授後藤治氏、山辺構造設計事務所代表山辺豊彦氏、(株)竹中工務店先進構造エンジニアリング本部課長小林道和氏。

- 一 地域木材産業が維持できる、効率的な生産・加工・流通体制の構築、税制度の確立、木材貿易の適正推進に取り組もう
- 一 間伐材・未利用材の木質バイオマス発電利用をはじめ、新規分野の開拓促進などに取り組もう
- 一 安全・安心のJAS製品、合法木材・木製品、乾燥材などの木材供給や担い手の育成確保に取り組もう

木材利用拡大に関する特別決議

- 一 新たな消費税率導入に伴う景気反動に対応する大型経済対策の早期実現
 - 一 地域経済の活力回復に大きく役立つ、木材利用ポイント事業、
- 木造の公共建築物整備促進対策等の木材需要拡大対策、効率的な木材加工・流通体制構築対策の拡充強化

ご挨拶

大会会長

一般社団法人 全国木材組合連合会 長 吉 条 良 明

全国木材産業振興大会の開催に当たりご挨拶を申し上げます。

本日、第四十八回全国木材産業振興大会が、ここ、さいたま市において地元埼玉県木材協会ほか全木連関東支部の皆様方のご尽力により、かくも盛大に開催できましたことは大きな喜びであり光栄であります。また、ご多用のなか、農林水産大臣、国土交通大臣、林野庁長官、埼玉県知事、埼玉県議会議長、さいたま市長をはじめ多数のご来賓のご臨席を賜り心から御礼申し上げますとともに、全国各地からご参集いただいた多くの会員、友好団体の皆様へ感謝申し上げます。次第であります。

「第三十七回全国育樹祭」が、「育てよう みどりは未来の たちからもの」という大会テーマの下、埼玉県下において先週の十六、十七日に開催されました。また、県内各地で数多く開催された関連行事なども通じ、森林・林業、木材

に対する高い理解・関心が寄せられました。埼玉県当局をはじめ、ご支援、ご協力された関係機関の一を占め、これらは首都圏の人々の保健休養や水源林として貢献し、また、「西川材」という優良材の生産・供給地としても知られております。木材業界につきましては、関係者一丸となって、首都圏の木材安定供給と木材利用の推進・提案などにご尽力されておられます。このような地において、全国の木材産業関係者が集い、木材利用推進、木材業界の振興方策・展望などについて確認し合い、それらを広く訴えていこうとする本大会が開催できますことは大変に意義深いものであります。

さて、我が国の経済は、長引くデフレからの早期脱却と経済再生を図るため大胆な景気対策が進められ、このところの景気動向は緩やかな回復の兆しがみられます。木材業界につきましては、住宅着工戸数が消費税関連もあり昨年を上回る規模で推移し、これに伴い木材需要も幾分上向きにあります。が、その事業環境は依然として厳しく先行き不透明という状況にあります。全ての地域・業界、特に木材業界で景況回復の実感が行きわたるよう、先ずもって、新たな経済対策・総合的景気対策の早期実現を強く要請するものであります。

全木連は、昨年の宮崎大会以降のこの一年、会員挙げて「新たな木材利用への挑戦で木材産業の創造的再興」という大会スローガンの下で木材利用推進・木材産業振興に関する効果的な諸活動、業界の自主的活動の活発化などに取り組んでまいりました。今、緊急かつ最大の課題は木材需要の回復・拡大であります。木材の利用は、人々の健康なくらしに不可欠で低炭素化社会の実現や地域経済の振興に大きく貢献するものであり、それを主として担う木材産業の維持発展のためにも木材需要の回復・拡大は不可欠であります。

今回の木材産業振興大会は、「街づくりへ木材利用を拡大しよう」をサブスローガンとしています。住宅の着工戸数は、人口・世帯数見通しや住宅ストック状況から中・長期的には回復・増加が難しいとの見方がある中で、木材需要の拡大を進めていくには生活、商工

